

日本ポリアミン研究会 第17回研究発表会

会 期 : 平成14年1月17日(木)・18日(金)
 会 場 東京慈恵会医科大学 高木2号館 南講堂
 参加費 : 2,000円(講演要旨集代含む)
 懇親会費 : 4,000円

日 程 :

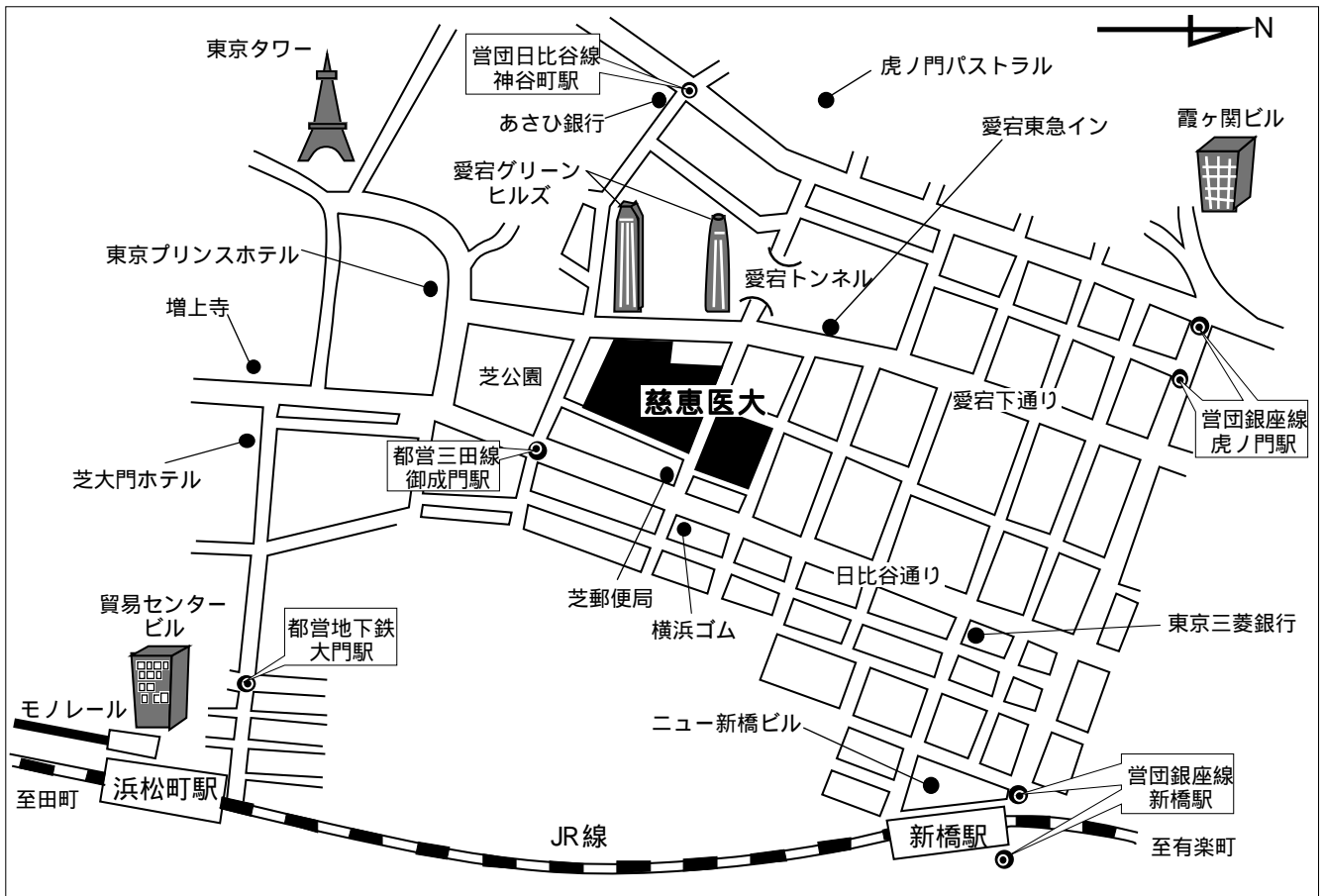
		11:45	12:45	13:00	13:10	13:55	14:40	15:00	15:45	16:30	16:50	17:50	18:00	20:00
17日			(幹事会)		開会の辞	ポリアミンと 関連酵素の測定(1)	ポリアミンと 関連酵素の測定(2)	コーヒーブレイク	ポリアミンとがん(1)	ポリアミンとがん(2)	コーヒーブレイク	特別講演		懇親会
18日					昼休み (理事会)	ポリアミンの 生理作用(1)	ポリアミンの 生理作用(2)	コーヒーブレイク	ポリアミンの 生理作用(3)	閉会の辞				
		9:30	10:30	10:50	11:50	13:20	14:20	15:20	15:40	16:40	16:50			

講演時間 : 発表討論5分

当番世話人 村上安子(東京慈恵会医科大学・生化学講座第2)

事務局 : 東京慈恵会医科大学 生化学講座第2
 〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8
 TEL : 03-3433-1111 内線2276
 FAX : 03-3436-3897
 e-mail: kitene@jikei.ac.jp

会場周辺のご案内



交通のご案内

J R	山手線	新橋駅	徒歩 15 分
		浜松町駅	徒歩 20 分
地下鉄	都営三田線	御成門駅	徒歩 5 分
	都営浅草線・大江戸線	大門駅	徒歩 15 分
	日比谷線	神谷町駅	徒歩 10 分
	銀座線	虎ノ門駅	徒歩 15 分

会場（東京慈恵会医科大学）のご案内



プログラム

第1日 平成14年1月17日(木)

開会の辞 13:00~13:10 林 伸一

ポリアミンと関連酵素の測定(1) 13:10~13:55 座長: 柏木敬子(千葉大院)

1. HPLCを用いる脱炭酸化 *S*-アデノシルメチオニンの高感度定量法の開発 岩崎聖子、和田牧子、白幡 晶
(城西大・薬)
2. *N*¹-Dansyl norspermine を用いた spermidine/spermine *N*¹-acetyltransferase (SSAT) 活性測定法の開発 深澤一昭、宮武晋治、岡本政治、高尾浩一、白幡 晶
(城西大・薬)
3. 食品中のポリアミン量とポリアミン摂取量 西堀尚良¹、藤原伸介²、真山真理³、明槻とし子¹
(¹四国大短大部、²中央農業総合研究センター、³四国大)

ポリアミンと関連酵素の測定(2) 13:55~14:40 座長: 白幡 晶(城西大)

4. 色素法によるアセチルポリアミンの酵素的測定法 富田耕右、櫻田志保香、杉山卓郎
(関東学院大・工・工化)
5. IS-MS による *N*¹,*N*¹²-ジアセチルスペルミンの定量 小林正樹¹、鮫島啓二郎¹、平松恭子²、川喜田正夫³
(¹城西大・薬、²東京都臨床研、³工学院大・応用化学)
6. 大腸癌術後患者における尿中ポリアミン測定の意味 高橋慶一¹、平松恭子²、川喜田正夫³、山口達郎¹、大植雅之¹、森 武生⁴
(¹東京都立駒込病院外科、²東京都臨床研、³工学院大・応用化学、⁴東京都立駒込病院副院長)

ポリアミンとがん (1) 15 : 00 ~ 15 : 45

座長 : 佐藤昇志 (札幌医大)

7. Role of polyamines in epidermal growth factor (EGF)-induced proliferation of Swiss 3T3 fibroblasts

Matiar Rahman, Yoshihiro Morishima, Yoshihisa Yano, Tadayoshi Hasuma, Shuzo Otani
(Department of Biochemistry, Osaka City University Medical School)

8. Targeted antiproliferative effects of agmatine

Masato Isome, Mark J. Lortie, Karen Munger, Roland C. Blantz, Joseph Satriano
(Division of Nephrology-Hypertension, University of California San Diego & VA Medical Center)

9. ヒト網膜芽細胞腫 Y79 に対するオルニチン脱炭酸酵素阻害剤の増殖抑制作用およびその機構

上田章子^{1,2}、新家 眞²、久保田俊一郎¹
(¹東大院・医・代謝生理化学、²東大・医・付属病院眼科)

ポリアミンとがん (2) 15 : 45 ~ 16 : 30

座長 : 名越澄子 (埼玉医大)

10. ODC 過剰発現によるエンドスタチン産生抑制 血管新生亢進の新しい機構

久保田俊一郎¹、堀 久枝²、根本崇宏¹
(¹東大院・医・代謝生理化学、²東医歯大・難治研・分子病態)

11. アテロコラーゲンをを用いた ODC アンチセンスオリゴヌクレオチドによる新規の癌遺伝子治療法の確立

中澤久仁彦¹、根本崇宏¹、秦 朋子¹、脊山洋右¹、永原俊治²、佐野明彦²、伊藤 博³、永井 裕³、久保田俊一郎¹
(¹東大院・医・代謝生理化学、²住友製薬、³高研)

12. ポリアミンによる MHC class I 抗原提示の制御

吉田 仁、鳥越俊彦、大島 真、廣橋良彦、上口権二郎、田村保明、佐藤昇志
(札幌医大・医・第一病理)

コーヒープレイク 16 : 30 ~ 16 : 50

特別講演 16 : 50 ~ 17 : 50 司会 : 大谷周造 (大阪市大)

TNF- α を介する発がんプロモーション
とがん予防 藤木博太
(埼玉県立がんセンター 参事)

懇親会 18 : 00 ~ 20 : 00

東京慈恵会医科大学 高木 2 号館地下
レストラン リーベ

第2日 平成14年1月18日(金)

ポリアミンの代謝(1) 9:30~10:30

座長: 久保田俊一郎(東大院)

13. 好塩性光合成細菌 *Rhodothalassium salexigens* の主ポリアミンとしてのホモスペルミジンとアミノプロピルホモスペルミジンの存在
浜名康栄¹、新津 勝²
(¹群馬大・医、²城西大・薬)
14. 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* のポリアミン合成アミノプロピル転移酵素の生化学的解析
大沼みお¹、照井祐介¹、玉腰雅忠¹、石田真己²、鮫島啓二郎³、大島泰郎¹
(¹東薬大・生命、²水産大・水産、³城西大・薬)
15. 偏性嫌気性細菌 *Selenomonas ruminantium* のリジン脱炭酸酵素は、真核生物オルニチン脱炭酸酵素と進化的同起源である
高塚由美子、山口良弘、神尾好是
(東北大院・農・応生科)
16. 偏性嫌気性細菌 *Selenomonas ruminantium* におけるリジン脱炭酸酵素の発現制御機構に関する研究
山口良弘、高塚由美子、神尾好是
(東北大院・農・応生科)

コーヒーブレイク

10:30~10:50

ポリアミンの代謝(2) 10:50~11:50

座長: 蓮間忠芳(大阪市大)

17. ラット *S*-アデノシルメチオニン脱炭酸酵素の化学的構造解析
和田牧子、岩崎聖子、白幡 晶
(城西大・薬)
18. アンチザイム 1, 2 の細胞内局在
村井法之、村上安子、松藤千弥
(慈恵医大・生化2)
19. *Ex vivo* 小腸灌流モデルを用いたポリアミン吸収動態
辻川知之、宇田勝弘、馬場忠雄
(滋賀医大・第二内科)
20. 経口投与 ¹⁵N-ポリアミンの ADME 研究
小林正樹¹、佐々木ひとみ¹、鮫島啓二郎¹、新津 勝¹、高橋正一²、橋本嘉幸³
(¹城西大・薬、²佐々木研、³共立薬大)

ポリアミンの生理作用(1) 13:20~14:20

座長: 新津 勝(城西大)

21. イントロン由来 RNA による DNA 組み換えの誘導 - スペルミジンの関与の可能性
水田龍信¹、岩井孔良²、繁野雅次³、水田みどり¹、牛木辰男²、北村大介¹
(¹東理大・生命研、²新潟大・第三解剖、³セイコーインスツルメンツ)
22. 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* が生産する特異的ポリアミンの核酸に対する影響
照井祐介¹、大沼みお¹、平賀 香¹、川島悦子²、大島泰郎¹
(¹東薬大・生命、²東薬大・薬)
23. *Thermus thermophilus* 由来分岐ポリアミンのアンチザイムフレームシフト効果
佐藤裕佳^{1,2}、照井祐介¹、松藤千弥²、大島泰郎¹
(¹東薬大・生命、²慈恵医大・生化2)
24. ポリアミンレギュロンの翻訳レベルでの発現調節機序
吉田 円¹、柏木敬子¹、河合剛太²、石浜 明³、五十嵐一衛¹
(¹千葉大院・薬、²千葉工大・工、³遺伝研・分子遺伝)

ポリアミンの生理作用(2) 14:20~15:20

座長: 辻川知之(滋賀医大)

25. NMDA 受容体チャネル領域の構造
柏木敬子¹、益子 崇^{1,2}、久野智子¹、田中郁子¹、Keith Williams²、五十嵐一衛¹
(¹千葉大院・薬、²SUNY Health Science Center)
26. LPS 刺激ラット肺胞マクロファージにおける Cytokine-induced Neutrophil Chemoattractant (CINC) 産生に及ぼすプトレスシンの作用
矢野善久、矢野美保、森島嘉宏、蓮間忠芳、大谷周造
(大阪市大院・医・細胞機能制御)
27. 環境エストロゲンのハムスター精巣上体のポリアミン代謝およびアポトーシスに及ぼす効果
邱 春紅、大江正人、市村 薫、松崎 茂
(獨協医大・生化)
28. B 細胞のアポトーシスにおけるポリアミンの役割
新田 剛¹、五十嵐一衛²、山本三毅夫³、山本直樹¹
(¹東医歯大院、²千葉大院・薬、³防衛医大・医)

コーヒーブレイク

15 : 20 ~ 15 : 40

ポリアミンの生理作用 (3) 15 : 40 ~ 16 : 40

座長 : 矢野善久 (大阪市大)

29. 水稲の栄養生理とポリアミン

藤原伸介¹、寺門純子¹、熊谷 均²
(¹中央農業総合研究センター、
²鳥取農業試験場)

30. 2種のイネ科植物における耐塩性の差とポリアミンとの関連性

山本昭洋¹、沈 利星¹、藤原伸介²、
米山忠克³、臼井健二¹
(¹筑波大・応用生物化学、
²中央農業総合研究センター
³東大院・農・生命科学・応用生命
化学)

31. 腎不全患者血中におけるポリアミンの尿毒素への変換

坂田かおり¹、柏木敬子¹、
Shahana Sharmin¹、上田志朗¹、
白幡 晶²、五十嵐一衛¹
(¹千葉大院・薬、²城西大・薬)

32. アンチザイム 1 欠損マウスの遺伝背景による致死性の差

大城戸真喜子¹、孟 興麗¹、
村上安子¹、松藤千弥¹、杉谷善信²、
山中ひとみ²、野田哲生^{2,3}
(¹慈恵医大・生化 2、²癌研・細胞生物、
³東北大院・医・細胞生物)

閉会の辞

16 : 40 ~ 16 : 50

村上安子